

大雨による土砂災害に備えましょう

土砂災害とは、「がけ崩れ」「土石流」「地すべり」のことを言います。梅雨の長雨の時期は大量の水分が土にしみ込み、土砂災害が発生する危険性が高くなります。近年、大雨による土砂災害が全国的に増加しており、昨年は全国で700件以上の土砂災害が発生しました。

今回は、土砂災害からの避難のポイントについて説明します。

問い合わせ 防災危機管理課 ☎55-2715 FAX51-2040 E**bousai@div.city.fuji.shizuoka.jp**

土砂災害からの避難のポイント

土砂災害からの避難の原則は、「風雨が強くなる前に土砂災害の危険区域から出る」ことです。避難を効率的に行うため、日ごろから家庭や地域で次のことを話し合っておきましょう。

1 自宅周辺の土砂災害の危険区域は？

市内には、土砂災害の危険区域が多数存在します。皆さんの自宅周辺に存在する土砂災害の危険区域を「富士市防災マップ」(平成26年4月全世界配布)で確認しておきましょう。「富士市防災マップ」は、市ウェブサイトででも閲覧できます。※くらしと市政↓防災・安全安心↓防災↓災害への備え↓防災マップについて



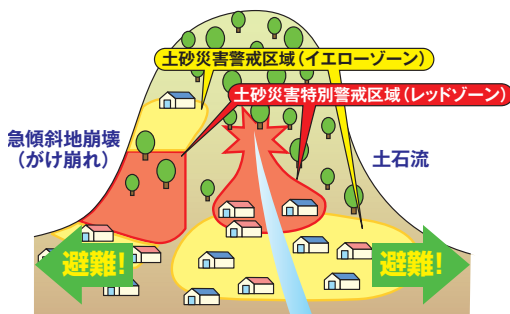
富士市防災マップ



土砂災害の危険区域を確認しておきましょう

2 土砂災害からの避難先は？

土砂災害からの避難の原則は、「早い段階で「土砂災害の危険区域から出る」ことであり、「市指定避難所に行くこと」ではありません。日ごろから、親戚や知人宅、町内会(区)の公会堂など、安全な避難先や避難経路を決めておき、冠水などの危険を避けて危険区域外に出てください。また、危険区域外にお住まいの人は、避難者の受け入れにご協力をお願いします。



風雨が強まる前の早い段階で、土砂災害の危険区域外に避難するのが最も安全です

チェックポイント

- 我が家の土砂災害からの避難先は？
- 知人や親戚宅
 - 町内会(区)の公会堂
 - 地区まちづくりセンターや市指定避難所(開設されている場合)

避難がおくってしまった場合は「いつとぎ待避所」へ待避を!

「いつとぎ待避所」とは、自宅や隣の頑丈な建物の2階以上のうち、土砂が襲ってくる方向からできる限り離れた部屋のことで、避難がおくってしまった場合に緊急的に待避する場所のことです。

既に周囲で道路冠水や土砂災害が発生しているなど、無理に屋外に出ることで身の危険を伴うようであれば、「いつとぎ待避所」へ待避してください。



【いつとぎ待避所】

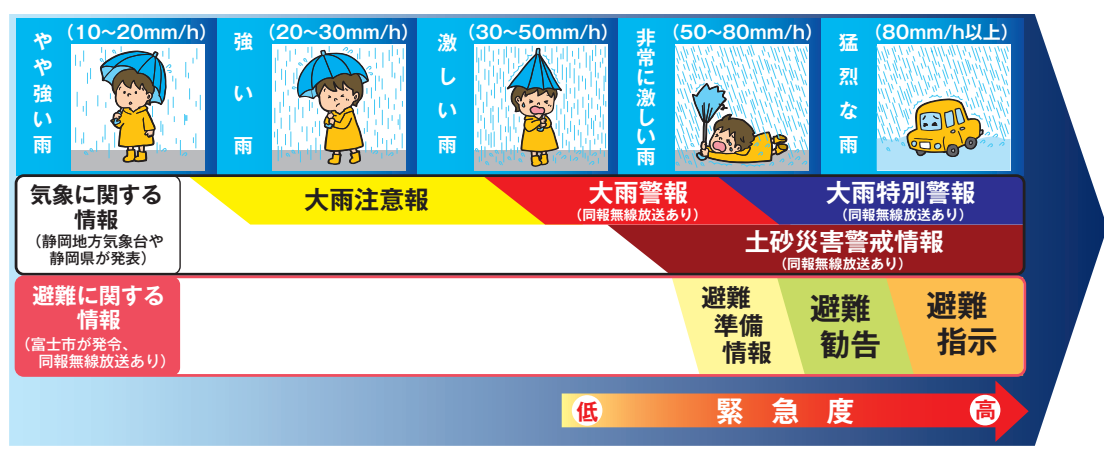
- 自宅の2階以上
- 近隣の頑丈な建物の2階以上
- がけ崩れ・土石流が襲ってくる方向からできる限り離れた部屋

3 土砂災害からの避難のタイミングは？

大雨や土砂災害に関する情報には、「気象に関する情報」と「避難に関する情報」の2種類があります(次ページ参照)。日ごろから、避難するタイミングを決めておき、土砂災害の危険性が高まる前に避難を開始しましょう。

雨の降り方と注意報・警報の関係
(目安)

「気象に関する情報」と「避難に関する情報」の種類と意味をあらかじめ確認しておきましょう。



「気象に関する情報」と「避難に関する情報」は左記のとおりです。

気象に関する情報

● 土砂災害警戒情報
大雨警報発表中に、さらに大雨が降り、土砂災害が発生する危険性が高まったときに発表されます。

● 大雨特別警報
台風や集中豪雨により、数十年に一度の降水量が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まったときに発表されます。

● 避難に関する情報
避難に関する情報は「大雨特別警報」「土砂災害警戒情報」「大雨警報」を同報無線でお伝えします。大雨のときには、屋外のスピーカーからの情報が聞き取りにくくなるため、同報無線メールの登録や、防災ラジオの準備をしておきましょう。

● 避難準備情報
避難する準備をしてください。なお、高齢者や障害者など、避難に時間がかかる人は避難を開始してください。

● 避難勧告
ただちに危険区域外への避難を開始してください。

● 避難指示
避難勧告よりも急を要する場合に発令します。避難中の場合は、ただちに避難行動を完了してください。危険区域外へ避難する途中、既に冠水しているなど、危険と判断される場合には、「いつとき待避所」に待避するなど、生命を守る最大限の行動をとってください。

4 気象や避難に関する情報の収集方法は？

気象や避難に関する情報は、次のようなさまざまな方法で収集することができます。日ごろから収集方法を確認し、大雨のときには、積極的に情報を確認し、早目の避難を心がけましょう。

① テレビを使った情報収集

テレビのリモコンの「dボタン」を押すと、データ放送が閲覧できます。市内に発表されている注意報・警報や、10分ごとの降水量が表示されます。



② 同報無線を使った情報収集

市は、「避難に関する情報」や、「大雨警報」「土砂災害警戒情報」「大雨特別警報」を同報無線でお伝えします。大雨のときには、屋外のスピーカーからの情報が聞き取りにくくなるため、同報無線メールの登録や、防災ラジオの準備をしておきましょう。

★同報無線情報登録用メールアドレス

tfuji@se.nip.に空メールを送信してください
(二次元バーコードからも読み取れます)



★ラジオエフ(84.4FM)では、地域に密着した災害情報を聞くことができます。

「土砂災害DIGセミナー」を開催します(無料)

「災害図上訓練DIG」は、みんなが地域の地図を囲み、災害が発生したときの状況をイメージしながら、地域の危険区域や、災害時に役立つ物を確認することで、災害時にとるべき行動や、事前に行うべき対策を検証するための手法です。

このセミナーでは、土砂災害からの避難場所や避難のタイミング、情報収集の方法を話し合うとともに、地形図や模型を活用して、土砂災害の危険区域の特徴を確認します。

とき/6月18日(土)

13時30分/16時30分

ところ/消防防災庁舎3階作戦指令室

講師/小村隆史さん(常葉大学 社会環境学部准教授、災害図上訓練DIGの考案者)

定員/50人

申し込み/参加者の住所、氏名、連絡先を記入し、FAXで防災危機管理課へ